

(様式1) 実践事例

学校名	二本松市立二本松北小学校	校長名	菅野 藤雄		
住所	二本松市郭内一丁目1番地	児童生徒数	365名	学級数	16
TEL	0243-23-0029	ホームページアドレス	http://www.city.nihonmatsu.lg.jp/site/kita-es/		

一人一人の言葉を大切にしたい学び合う授業の展開

1 少人数指導の計画等

- 児童一人一人に確かな学力と豊かな心を育むため、少人数学級を選択することにより、学習面と生活面における個に応じたきめ細かな指導援助を行う。
- 学び合いの学習を充実させ、児童の学習意欲の向上と基礎基本の定着、思考力の育成を図る。
- 現職教育で一人一研究授業を実践し、少人数学級のよさを生かした授業の在り方について協議し指導力の向上を図る。

2 実践の概要（第1学年：算数「たしざん」）

<授業テーマ>

算数ブロックの操作を通していろいろな考え方があることに気付くことができる授業

<授業のねらい>

算数ブロックを使って答えを導き出し、実際に操作をしながら説明し、互いの意見を交流することで、よりよい計算に気付くことができる。

<授業の実際から>

手立て1 算数ブロックをどのように操作するとよいのか、ブロックを動かしながら考える。

- 少人数のよさを生かし、教師が一人一人のブロック操作を確認することができた。考えを上手に表現できていない児童には個別に支援することができた。



T: 一緒にやろう。
C: 9でしょ、4でしょ。
あわせてから、1、
2、3・・・13。

手立て2 算数ブロックを動かしながら、自分の考えを友達に説明する。

- 自分の考えがまとまった児童から自由に交流し、考え方が同じか異なるかを意識しながら伝え合うことができた。少人数であるため、一人一人の児童の思考を捉えやすく、全体での話合いに生かすことができた。



C: 1から数えました。
1, 2, 3・・・
C: 9こあるでしょ。1こ
あけて10になって
13。

手立て3 友達の考えをしっかりと聞き、繰り返し話すことで理解を深める。

- 少人数のよさを生かし、全体で思考する場面で黒板を使うのではなく、説明する児童の周りに全員が集まり、ブロック操作をしながら言葉をつなぎ、思考を深めることができた。



T: ○○さんとはどこがちがうの？
C: 途中から数えてる。
9, 10・・・13。
C: 10のまとまりにして
る。

3 実践の成果と課題

- 教師が一人一人の考えや交流の様子をしっかりと把握し、子どもたちの考えや言葉をつなぎ、全体で思考を深めることができ、理解が確実となった。
- 生徒指導面でも、入学当初は離席をしたり、教室から出てしまったりしていた児童が落ち着いて学習し、自分の考えを進んで発表する姿が見られた。これも、少人数で個別にきめ細かに支援できる環境があったからである。
- 教師一人一人が少人数のよさを意識し、個を生かした効果的な授業の展開をさらに工夫する必要がある。
- 低・中学年においても、少人数ならではの習熟度別学習などを積極的に取り入れる。